

他科の先生に  
知って欲しい

# 豆知識・・・眼科編①⑥

## 「点眼剤の使い方」について

岡山県医師会眼科部会 松本 泰明



我々眼科医が普段処方している点眼剤ですが、他科の先生も処方されることがあると思います。我々眼科医が患者さんに指導する内容についてまとめます。

### ●何滴入れるの？

点眼剤の1滴量は $30\mu\text{L}$ ~ $50\mu\text{L}$ とされています。結膜嚢（眼球とまぶたの間）の最大容量は約 $30\mu\text{L}$ で、その中には涙液が約 $7\mu\text{L}$ 存在しているので1滴で十分です。

### ●まばたきをした方が良いの？

まばたきをすると点眼剤は涙点から吸引され、その後、涙小管、涙嚢、鼻涙管を経て鼻腔に達し、鼻咽頭粘膜から吸収されて全身に移行します（図1）。眼外に逃さないようにするために、点眼後は、まばたきはせず閉瞼して涙嚢部を5分程圧迫します（図2）。

### ●複数の点眼剤を使用する場合の間隔は？

最初に点眼した薬は後に点眼した薬によって洗い流されるため、他の点眼剤の影響を受けないようにできるだけ間隔をあけて投与することが望ましいとされています。結膜嚢内で涙液が入れ替わる速さは最短で6分程です。複数の点眼剤を使用する際に5分以上は間をあける根拠の一つとなっています。

### ●複数の点眼剤を使用する場合の順番は？

5分以上点眼間隔をあけることで相互の影響を受けにくくなりますが、一般的には水性点眼剤→懸濁性点眼剤→油性点眼剤→眼軟膏の順に使用します。ですが、より効かせたい点眼剤を後に使用する場合もあります。

### ●点眼時の注意点

点眼前に石鹸などで手を洗い、手指を清潔にします。  
点眼剤が間違いないことを容器ラベルで確認します。

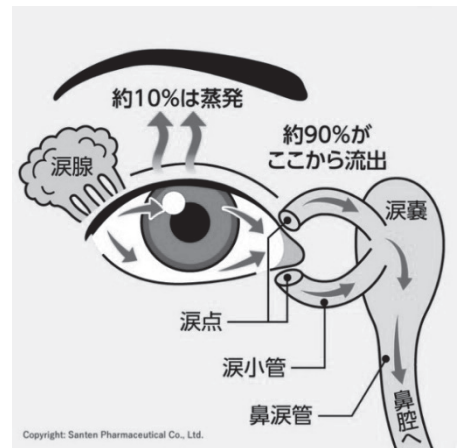


図1 涙液の流れ



図2 涙嚢圧迫

点眼容器の先端を手で触れたり、まぶたやまつ毛に触れないようにします。

### ●保存方法

基本的には遮光下で保管します。遮光保存が義務づけられている点眼剤は添付の遮光袋に入れて保管します。

室温保存（1℃～30℃）の点眼剤がほとんどですが「10℃以下保存」「冷所保存」などの条件が添付文書に記載されているものもあります。冷所で保存する必要がある点眼剤でも決して凍結はさせてはなりません。

プラスチック製の点眼容器は気体を透過する特性を持っています。湿布薬や液状の消炎鎮痛剤、油性ペン、洋服の防虫剤などには揮発性の高い成分が含まれているために、容器を透過して点眼液に溶け込む可能性があり、一緒に保管しないようにする必要があります。異臭や刺激を感じたら使用を中止します。

### ●使用期限

未開封で保存した場合の使用期限は点眼瓶のラベルに記載されています。開封後の使用期限が特に設定されていない点眼剤でも開封に伴う汚染の危険性があり、使用期限は約1カ月とされています。ただし、開封後1カ月以内であっても点眼液の中に浮遊物や濁り等が認められた場合は使用を中止します。

### ●最後に

点眼剤といえども全身的副作用として緑内障点眼剤（ $\beta$ -ブロッカー）による喘息発作、徐脈の誘発、抗菌点眼剤（ニューキノロン系）によるショック、アナフィラキシー様症状、眼局所副作用としてステロイド点眼剤による眼圧上昇等があり注意が必要です。

詳細は「他科の先生に知って欲しい豆知識 眼科編⑩」（2017年10月10日発行 岡山県医師会報 第1463号）に記載していますのでご参照ください。